

紅い山

2021. 11. 30

今年は、よく山を見ている。野田中学校から吾妻連峰を望むと、何の障害物もない。よく見える。安達太良連山を見ても、よく見える。春から初夏にかけては、青い山だった。それが、10月から11月にかけては、紅い山となった。毎週見ていると、徐々に紅葉が山頂部から麓へと下りてくる様子がよくわかる。

今年の紅葉シーズンには、思い立って、数年ぶりに磐梯吾妻スカイラインを目指してみた。ところがである。まだまだ高湯温泉にも着かないという地点で、全く車が進まなくなった。渋滞である。これでは、間違いなく歩いたほうが早い。それでも、せっかく来たのだからと、もう少し行けるところまで行ってみよう判断したのが間違いだった。

その日は、家人の愛車で出かけた。それも間違いだった。ちょっと進み、すぐに止まる。またちょっと進み、またすぐに止まる。こんなことを繰り返しているうちに、車が悲鳴を上げた。何か焦げるような臭いがしてきた。すると、見たこともないマークが点灯した。警告音も鳴った。

これらのことが、一度に襲いかかってくると、さすがに焦る。異常事態であることは確かである。このまま、車が動かなくなったらどうしよう。この大渋滞である。多大な迷惑をかけることになる。瞬時に考えた。「だめだ。戻ろう」それが結論だった。幸い、紅葉見物をあきらめて、狭い道をUターンしていく車が出始めていた。家人の車も、その流れに乗ることにした。ただ、他の人たちと違っていたことがある。それは、紅葉をあきらめたのではなく、車が心配だった点である。

車は、臭ったまま、麓まで何とか無事に下ってきた。早速、道端に車を止めた。そして、また考えた。とりあえず、車屋さんに電話をした。症状を伝えた。点灯したマークを元に戻す方法も教わった。少し様子を見てくださいとのことだった。経過観察ということか。家人は、かなり心配していた。それはそうである。車の持ち主である。

数日後、ちょうど12か月点検があり、家人の車をもっていった。そこで、詳しい説明を聞いた。納得はあったが、車の弱点も判明した。日本車ならば、起きないトラブルに思えた。紅葉シーズンのスカイラインには家人の車では行ってはいけない。それが今回わかったことだった。

今年は、最初からあきらめて、近づくこともしなかった。週末はむずかしい。そんなこんなで、紅葉というものを、一番いい時期に見たことがない。たいてい、少し遅れた11月上旬となってしまふ。当分の間は、徐々に紅色へと変わっていく吾妻山を下界から見上げるしかないようである。

以前、この校長室だよりに「青い山」と書いたが、見ていると、意外と緑色に見える日が多いことに気づいた。見慣れた吾妻連峰も、ほどなくして、今度は白い山へと変わっていく。緑、青、紅、白と飽きることなく、山々は、その姿を見せてくれる。これも、野田中学校ならではの楽しみなのかもしれない。